

群 教 七	G10 - 01
	平28.261集
	道徳

自分の生き方について考え、 道徳的価値を主体的に考える指導の工夫

— 伝え合う活動から自他の思考を可視化する活動を通して —

特別研修員 白石 淳

I 研究テーマ設定の理由

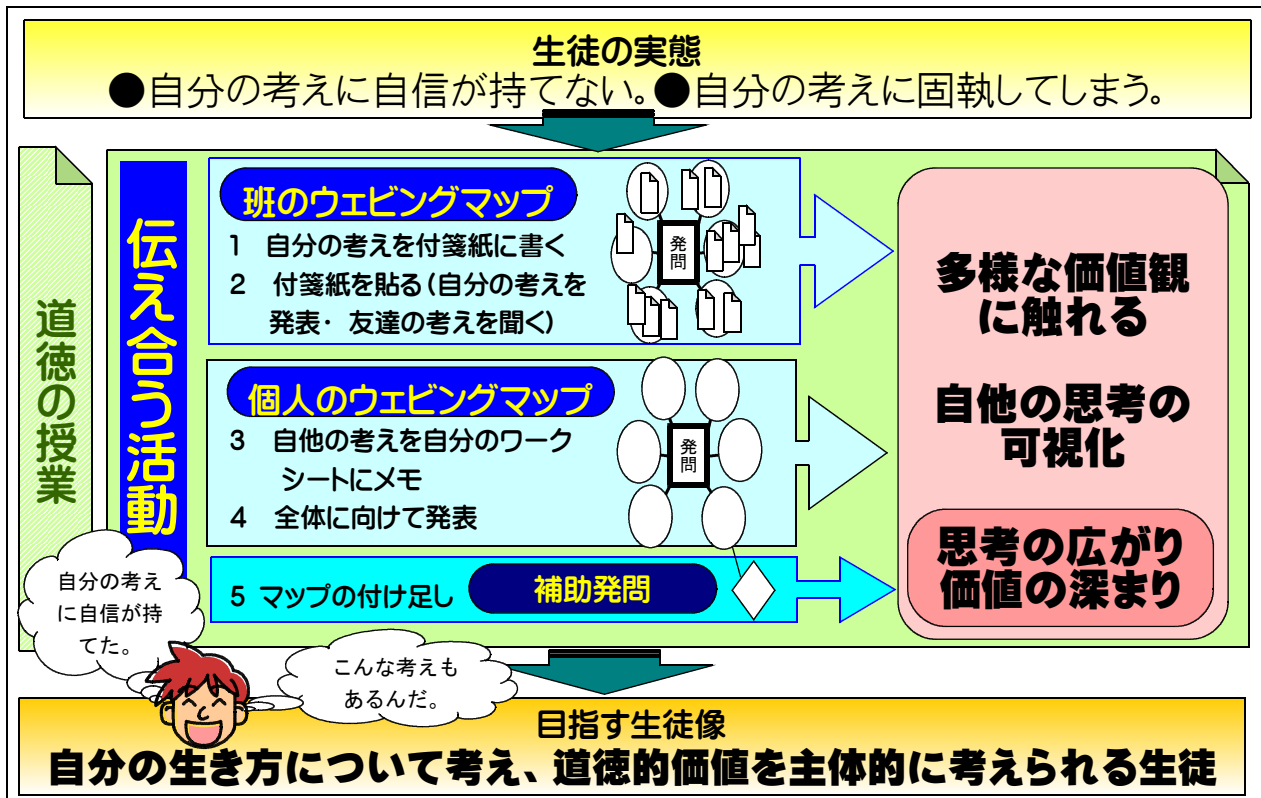
「はばたく群馬の指導プラン実践の手引き」には、道徳の授業を充実させるためのコツやアイデアとして、「考えを書く活動を充実させ、それを基に思考を深めるための板書の工夫、生徒相互が考えを伝え合う話し合い活動へと繋げていくこと」が挙げられている。

本校の生徒は、生徒会を中心に「日本一の中学生」を合言葉に、学校生活に意欲的に取り組んでいる。一方で、授業中の発言が少なかったり、声が小さかったりする傾向が見られる。自分の考えを主張することや様々な意見を交換し合うことについては、自分の考えに固執してしまったり遠慮をしたりして消極的になる傾向がある。これは自分の考えがはっきりせずに自信が持てないことや他者の思いや考えを取り入れようとしないことが原因であると考えられる。

このような生徒たちに、自分の思いや考えを明確にして伝え、多様な価値観を知ることが必要と考える。本研究ではウェビングマップを取り入れたワークシートを活用し、自分の思いや考えを可視化し、生徒が自信を持って「伝え合う活動」を行い、多様な価値観に触れるようにした。このことで、自分の思いや考えの広がりや道徳的価値の深まりを実感し、道徳的価値を主体的に考えることにつながると考え、上記の通りテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 「伝え合う活動」で自分の思いや考えを表現し、多様な価値観に触れるための工夫

手立て2 「伝え合う活動」で自他の思考を可視化するためのワークシートの工夫

<手立て1>

多様な価値に触れることができるようにするために「伝え合う活動」を取り入れた。

なお、中心発問に対して道徳的価値理解を深めていくために、「伝え合う活動」を以下の手順で進めた。

- ①自分の考えを付箋紙に記入する。
- ②司会を決めて活動を進める。個人のワークシートにあるウェビングマップと同様のものを拡大した班のワークシートに、付箋紙を貼りながら自分の考えを発表し、友達の考えの発表も聞く。
- ③自他の考えを個人のワークシートのウェビングマップにメモする。
- ④参考になった考え、全体に知ってほしい考え、類似が多かった考えを、全体に向けて発表する。
- ⑤生徒から出された思いや考えに対して、補助発問によってマップを付け足して多様な価値観を引き出し、道徳的価値を深める。

<手立て2>

自他の思考を可視化するために、ウェビングマップを取り入れたワークシートを、個人用と班別協議用の二種類を作成した。このワークシートは自分の考えを簡単な言葉で記入した後に、友達の考えをつなげて書けるようにした。このワークシートを活用することで、自分の思いや考えを再確認できるとともに、それをもとに自分の考えを整理して友達に伝えることができるようになる。さらに、全体発表で出た思いや考えに対して、ウェビングマップを付け足し、考えの広がりや道徳的価値の深まりや広がりを可視化することができようにしたことで、自分のより良い生き方について考え、道徳的価値を主体的に考えることができると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1では、付箋紙を使うことにより自分の思いや考えを短く簡単に書くことができ、表現しやすくなった。班の友達と同じような考えでも、質問をされてそれに返答することで、異なった理由や根拠を知ることができ、道徳的価値の理解につながったと考える。書く時間を減らして話す時間を増やしたことでたくさんの思いや考えをお互いに伝え合うことができ、多様な価値観に触れることができたと考える。
- 手立て2では、「伝え合う活動」の中で、班のワークシートのウェビングマップ上に、3～4人の付箋紙を貼ることで、似た考えや異なる考えがあることを視覚的に捉えることができた。また、付箋紙に書かれた自他の思いや考えを、個人のワークシート（ウェビングマップ）にメモすることで、多様な価値観を可視化するのに効果的であったと考えられる。
- 手立て2では、個人のワークシートのウェビングマップには、資料の登場人物の心情をもとにした発問に対する自他の思いや考えがメモされている。それらの一つ一つのウェビングマップに対して、具体的に自分自身のこととして捉えられるような補助発問をして、さらにマップを付け足していった。こうして、思考の広がりを可視化でき、道徳的価値を主体的に考え、今後の生活につなげることができたと考えられる。

2 課題

- 手立て1では、思考を可視化するために、付箋紙に書いたり個人のワークシートのウェビングマップにメモをしたりしたが、考える時間や伝え合う時間をより多く確保するために、より効率的な「伝え合う活動」の進め方を考える必要がある。
- 手立て2では、ウェビングマップを広げるために補助発問をするが、中心発問に対して生徒がどのような反応をするかを予測しておく必要がある。生徒の意見に対して適切な補助発問を用意しておくことが、自分に置き換えて考えさせたり、道徳的価値を深めさせたりできることにつながる。

実践例

- 1 主題名 くじけない心（内容項目A－（4）希望と勇気、克己と強い意志）
資料名 木箱の中の鉛筆たち（出典：あかつき出版）

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本授業では「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」に基づいて指導する。

夢を持つことは、意欲的な生き方を促し、生涯を豊かにするうえで大切なことである。夢を追い続けることは、よりよい生き方を探求していく過程ともいえる。探求していく過程の中では、理想どおりにいかない現実悩み苦しめ、大きな挫折感を味わうこともある。そのような挫折をも自ら乗り越え、夢の実現に向けて努力していく過程にこそ、夢を持つ意味がある。しかし、人はとかく挫折を乗り越える過程であきらめたり、はじめから挑むことを避けようとしたりする。また、挫折や失敗を悪いことのように捉えたり、夢をもつこと自体を否定的に捉えたりしてしまうこともある。夢を持つ、その実現に向け、努力を重ねることの大切さや夢を追い続けることで得られる充実感を求めさせることは、意欲的な生き方を支える力となる。そこで、より充実した生き方を求め、希望と勇気を持ち、自らが決めた目標に向かって粘り強く着実にやり抜こうとする態度を育てたいと考えた。

(2) 生徒観

中学生になると、物事を論理的に考えられるようになり、その結果、小学生の頃のように無邪気に夢や希望を語れなくなる。自己を冷静に見つめれば見つめるほど、自分の弱点や至らない面が目につく年頃であり、他人との比較において劣等感を感じ、そのことが投げやりな態度やあきらめにつながってしまったり、たった一度の失敗で自分自身の可能性を否定してしまったりする生徒もいる。生徒には自己の可能性を信じさせ、障害や困難に屈せず、目標達成に向けて努力しようとする意欲を持たせたい。

(3) 資料観

本学習で活用する資料「木箱の中の鉛筆たち」は、もの書きになることを夢見る筆者の挫折や失望の中で得た実体験をもとに描かれたエッセイである。原稿の書き直しを何度も命じられる中で自信をなくした主人公が、作曲家である父親に相談をする。父親は何百本もの短くなった鉛筆が入った木箱を持ち出し、自分の才能は努力によって作り出したものだと励ました。主人公は、その鉛筆と父の言葉に心を動かされ、夢に向かって再度、努力するという内容である。

3 本時及び具体化した手立てについて

手立て1 「伝え合う活動」で自分の考えを表現し、多様な価値観に触れるための工夫

主発問の「鉛筆を見せることで父親が私に伝えたかったことはどんなことだろう。」において、付箋紙に自分の考えを記入して、発表しながら班のワークシートに貼らせた。その発表に対して班員が質問することによって、自分の思いや考えの根拠を引き出すようにした。

その後、班で出た考えを全体に向けて発表し、板書を通して価値観を共有する。さらに、発表した一つ一つの考えに対して補助発問をし、個人のワークシートにウェビングマップを付け足して、より具体的な考えを記入する。それを班で伝え合うことで他者理解を深めさせ、多様な価値観に触れるようにした。

手立て2 「伝え合う活動」で自他の思考を可視化するためのワークシートの工夫

手立て1の「伝え合う活動」において、班のワークシートのウェビングマップを使うことによって、自他の思いや考えを班のワークシート上で共有して可視化しやすくさせた。その後、個人のワークシートに自分の複数の考えや友達のことを書き足し、さらに、全体発表で出た思いや考えに対して補助発問をしてウェビングマップを付け足し、思いや考えの広がりや道徳的価値の深まりを可視化させるようにした。

4 授業の実際

(1) 事前アンケート

導入では、事前アンケートに書かせておいた、教室掲示してある二学期の目標（生活・学習・部活）に触れた。将来の夢や就きたい職業など漠然とした夢や目標に関することよりも、より身近な目標に対して、価値を追求していくことにした。

- ①努力しようとする気持ちの割合が一番高いものを、三つ（生活・学習・部活）の中から選ばせる。
- ②努力しようとする気持ちの割合が高いがうまくいっていない状況、努力しようとする気持ちの割合は高くてもうまくいっているが順調ではなかった生徒を取り上げる。

上手くいっている人、いっていない人は、今後どうしていけばいいのかを投げかけ、本時で扱う価値につなげていった。

(2) 基本発問

補助発問：「ぼんやり日々を送る中で、「私」はどんなことを考えていただろう。」（人間理解）

ここでは希望を抱いていたが、挫折感や失意を抱く「私」の気持ちを押さえる。思うようにならない現実を捉えられるようにした。

補助発問：「父親の何百本のちびた鉛筆を見せられたとき、「私」はどんな気持ちで見つめていたろうか。」（価値理解）

木箱とちびた鉛筆の絵を提示し、イメージしやすくし、「ちびた鉛筆＝努力の過程」を押さえた。また、自他の価値観を近くの生徒と確認し、発言に結びつきやすくさせた。

ここでは、父親は才能があったから成功したのではなく、成功した人の陰には才能を伸ばす努力があったことを押さえ、ねらいとする価値に迫らせるようにした。

(3) 中心発問

中心発問：「鉛筆を見せることで、父が私に伝えたかったことはどんなことだろう。」（他者理解・価値理解）

発問後、「伝え合う活動」の方法を掲示（図1）して、流れを簡単に説明した。【手立て1】

- ①自分の考えを一つ以上付箋紙に記入する。
 - 自分の思いや考えを表現しやすく、簡単に書かせた。
- ②司会を決めて活動を進める。付箋紙を貼りながら自分の考えを発表し、友達の考えの発表も聞く。

○個人のワークシートと同様のものを拡大した班のワークシートのウェビングマップにたくさんの付箋紙が貼られたことで、自他の思いや考えを可視化することができ、多様な価値観に触れることができた（図2）。【手立て2】

- 友達の考えに対して「もう少し詳しく教えてください。」や「なぜそう思ったのですか。」などの質問をさせて、それに答えることで、考えの根拠を明らかにでき、価値の深めることにつながった。【手立て1】

○次の補助発問のために机間巡視をして、班でどのような考えが出たかを把握した。

○生徒の考えとして、以下のような内容が出された。

- S1:努力をすれば何とかなる、いい思いができる。
S2:諦めてはだめだ。
S3:才能を作ればよい。
S4:今からでも遅くない。

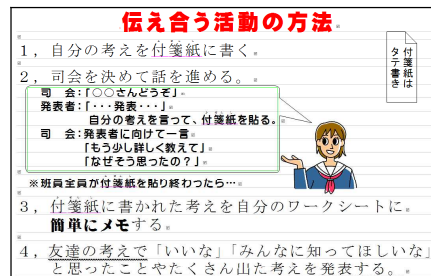


図1 「伝え合う活動」の方法

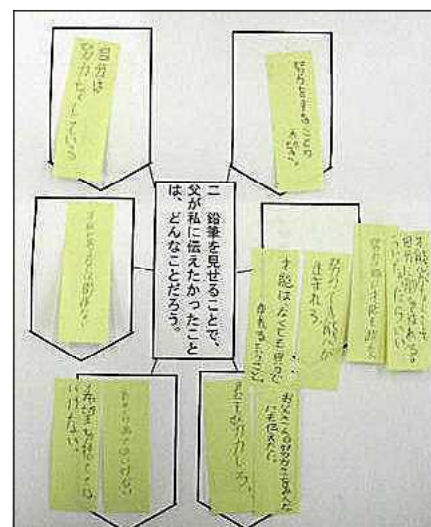


図2 班のワークシート

③自他の考えを個人のワークシート（ウェビングマップ）に簡単にメモする。

○個人のワークシート（ウェビングマップ）でも、自他の考えを可視化できるようにした（図3）。【手立て2】

○これを基にして、発表するための準備をする。

④自分が参考になった考え、全体に知ってほしい考え、類似が多かった考えを、全体に向けて発表する。

○②では班の3～4人の考えを共有したが、ここでは学級全体に対して考えを発表することで、さらに多様な価値観に触れさせるようにした。【手立て1】

⑤生徒から出された思いや考えに対して、補助発問を基にマップを付け足す。

○資料に即した発問によって出された生徒の考えを基に、資料から離れて自分自身に関する考えを出させるような補助発問をした（図4）。【手立て1】

○ここでは付箋紙を使わずに②③④の活動をして、多様な価値観を引き出して思考を広げ、道徳的価値を深めさせた。

【手立て2】

○板書とワークシートを一体化させ、補助発問によって付け足したウェビングマップを色分けすることで、より見やすいウェビングマップにした（図5）。

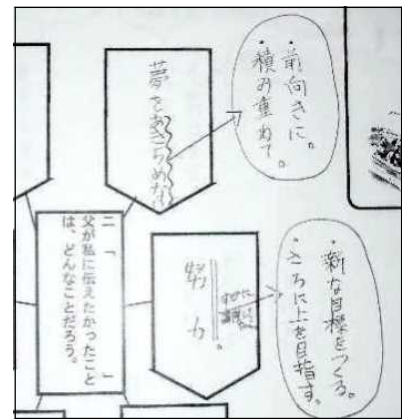


図3 個人のワークシート

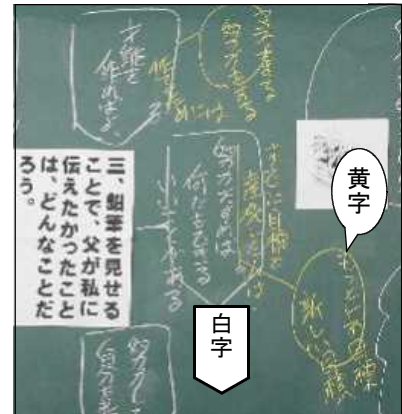


図5 板書の実際

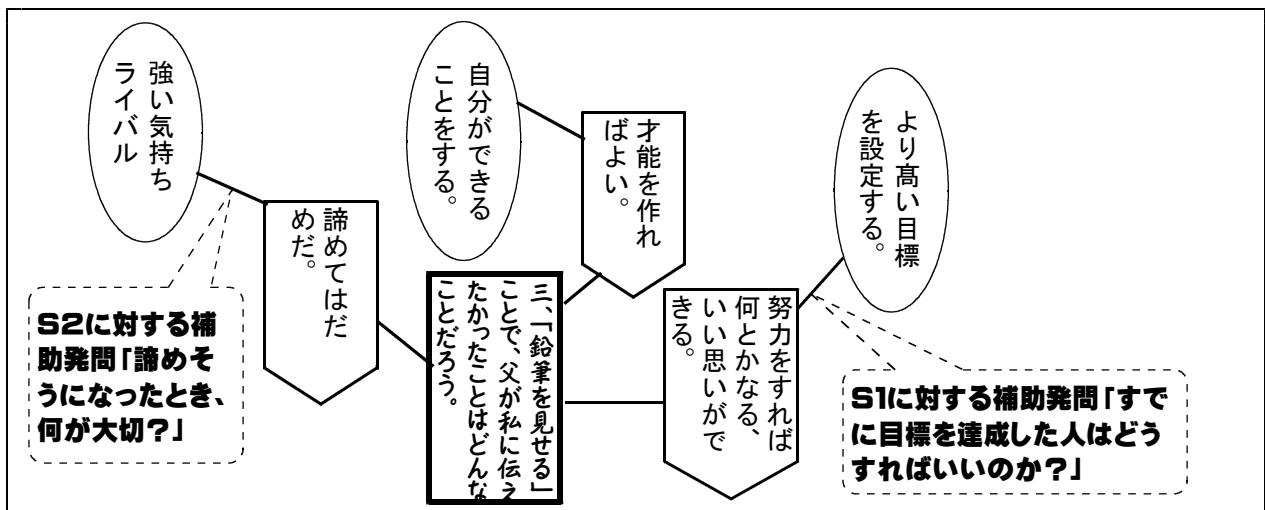


図4 補助発問

5 考察

手立て1では、中心発問の時間を十分に確保する必要があったので、発問を精選して書く時間を減らし、「伝え合う活動」で時間をかけて他者理解・価値理解を深めることができた。

手立て2では、中心発問で「伝え合う活動」の際に付箋紙を貼って自他の思いや考えを可視化したことで、自分と類似した考えがあると自信を持って発表できたり、友達のよい考えを発表できたりするので、全体に向けてたくさんの考えが出されるので、多様な価値観に触れることができたと考えられる。

事前・事後アンケートを比較すると、二学期の目標（生活・学習・部活動）に対して、努力しようとする気持ちが高まった生徒が90%近くいた。また、ワークシートの本時のまともに書かれている内容を見ても、多くの生徒が、目標を達成するためには継続的な努力や強い意志が必要であると認識していた。授業後から期間をおいて、努力しようとする気持ちの確認をすることも必要である。